

令和3年5月28日

## 第118回 静岡大成中学校、静岡大成高等学校 開校記念式典 校長挨拶

本日、第118回静岡大成中学校、静岡大成高等学校開校記念式典を挙行できましたことを、大変嬉しく思います。ご多用の中、ご来賓の皆様のご臨席を賜りましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

本校は今年で創立118年を迎えます。私たちの先輩である生徒・保護者・教職員が創ってきた歴史に、今年は私たちが新たな歴史を刻む番となりました。何年か経った後、「自分もこの学校の歴史を創った一人だ」と胸を張って言えるように、何事にも一生懸命に取り組んでいきましょう。

さて、本校の開校記念日は5月30日で、今日はその日を祝う式典です。学校が始まった日は4月1日ですが、なぜ開校記念日は5月30日なのか。2・3年生には、昨年度理由を説明しましたが覚えていますか。大切なことですし、1年生も入ったことなのでもう一度説明します。理由は2つです。

5月30日が開校記念日となった理由。

一つは今から91年前、1930年に、天皇陛下が静岡県に視察に訪れ、側近の本多侍従が本校を視察した日だから。

もう一つは今から73年前、1948年に、新校舎完成の「復興記念式典」が行われた日だからです。

一つ目の天皇陛下の県内視察は、静岡県内で2校のみという大変名誉あることでした。天皇陛下が県立三島高等女学校（今の三島北高校）を視察し、側近の本多侍従が本校（静岡精華高等女学校）を視察したのです。本校が選ばれた理由の中には、歴史・伝統が良い、卒業生が立派である、礼儀正しい、強く優しく活発な性格が身につけているということがあったそうです。この時の本多侍従の本校滞在時間は、わずか22分のことでした。

二つ目の「復興記念式典」は、大変な努力の末に完成した、待ちに待った新校舎の「復興記念式典」でした。本校は、1945年の静岡大空襲で、校舎は全焼、生徒の勉強道具も重要書類も、本もピアノもミシンも、何もかもが灰になってしまいました。ようやく、軍需工場の寮を仮の校舎として授業が再開できたものの、床は抜け落ち、ガラスが無く、雨風が吹き込むといった、惨憺たる状態の中での授業でした。教科書や教材もありません。文具や紙も手に入らない。そもそも、食料や着るものも配給制という貧困状態の中で、すべての物資が不足しているときでした。

そのような中で、校舎再建・学校再建のため、保護者は寄付金集めに奔走し、同窓会は音楽会・バザー・募金活動を実施するなど、その熱意とバイタリティ溢れる活動には、並々ならぬものがありました。生徒は、休暇を利用し、アルバイトや手芸品の販売をして得たお金を、復興資金に充てるなど、涙ぐましい協力ぶりだったようです。

5月30日は、本校にとって大変名誉ある日、であると同時に、灰の中から復活した記念すべき日、ということです。そのようなことを思い、これまで先輩たちが作ってきた歴史に感謝しながら、本校に関係する人たちみんなで、この日を迎えたいと思います。